

令和6年度 高等部 学部研究まとめ

1. 学部研究について

(1) 目的

- ① 各教科等の観点およびその趣旨を踏まえて3観点の評価ができるような、統一された評価基準および表現の文言を検討する。
- ② 授業提案ごとに略案を作成し、生徒の実態と評価の視点について確認しながら、到達度の表し方を考察する。

(2) 経緯

全校研究研を行うにあたり、各部から取り上げたいテーマのアンケートを取った結果、高等部からは部の7割が「評価の考え方・あり方について深めたい」というテーマに興味をしめした。そこで、全校研究の「児童生徒の実態に合わせた主体的・対話的で深い学びに迫る授業づくり～観点別評価との往還を通して～」という主題のもと、高等部では評価について行うこととなった。

		選択				研究期間			計
		①	②	③	④	1年	2年	3年	
小学部 32/36 (89%)	2年級秋	11		2	1	1	10	1	2
	1年級秋	7	1	1		2	5	2	
	今年から	9					6		3
中学部 18/24 (75%)	2年級秋	4	1	1		2	2	2	
	1年級秋	2			1	1	1		1
	今年から	5	2	2		1	6	1	1
高等部 24/24 (100%)	2年級秋	3	9	1		2	6	2	3
	1年級秋	1	4	2		2	3	1	1
	今年から		4				4		
集 計	2年級秋	18	10	4	1	5	18	5	
	1年級秋	10	5	3	1	5	9	3	
	今年から	14	6	2		1	16	1	
	合 計	42	21	9	2	11	43	9	11

【表1】全体研究のテーマに係るアンケート結果（提出74名：回収率88%）

特に、自由記述でいただいた意見で、「3観点色分け一毎回直しが多い。目標と評価の考え方について研修していきたいから」、「同じ学級で1名だけ色分けを反対にするように訂正が入った。理由が『発達段階が違うから』だった。発達による観点の違いに触れたい。」など3観点および評価の文言に関するものを多くいただいた。そこで、実際に『個別の指導計画』の目標として出された単元を提案授業として出していただき、その評価を演習として行うことで3観点の評価のあり方に迫ることとした。

(3) 研究内容・方法

① 授業提案

1. 3年3組（重複学級）生活単元学習「1年間の思い出のアルバムを作ろう」
2. 1年1組（通常学級）国語「学校生活上必要な言葉を覚えよう！」
3. 2年1組（通常学級）生活単元学習「修学旅行に行こう」

※授業日順に掲載

② 学部研究会

5名前後の小グループを作り、ワークシートを元に、提案された授業の評価規準を元に実際に評価の文章を作った。演習にあたり、「どんな学習内容について理解し、それをどのように活用し、どのように取り組めたのか」を順序だてて記述することで、保護者にもわかりやすく伝えられる3観点を含んだ個別の目標が建てられるのではないかと仮説を元に、

空欄補充の作文的な文書様式をガイドにして取り組んだ。文章の順は下記の通りになる。

- (ア) 知識及び技能の習得状況 … ～が分かり
(イ) 知識及び技能を活用して課題を解決する様子 … ～しながら
(ウ) 学ぼうとしているかどうかという意味的な側面 … 一人で/丁寧に など

その後、各グループで出された「評価文」の検討を行いより良い評価に求められるものを
探ることとした。

③ 参考

評価の演習を行うにあたって下記の書籍の内容を参考にした。

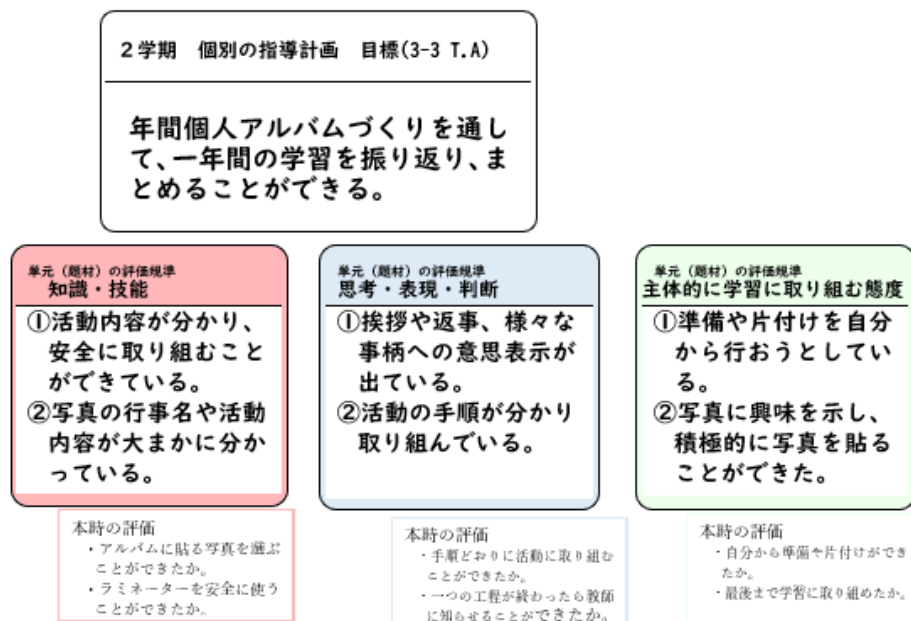
1. 文部科学省『特別支援教育』令和4年【冬】 東洋館出版社
「観点別評価」のポイント
2. 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
各教科・科目の学習評価
3. 2019 岩手大学教育学部附属特別支援学校研究
「遊びの指導・生活単元学習の3観点による評価例」

2. 学部研究会のまとめ

(1) 演習の結果

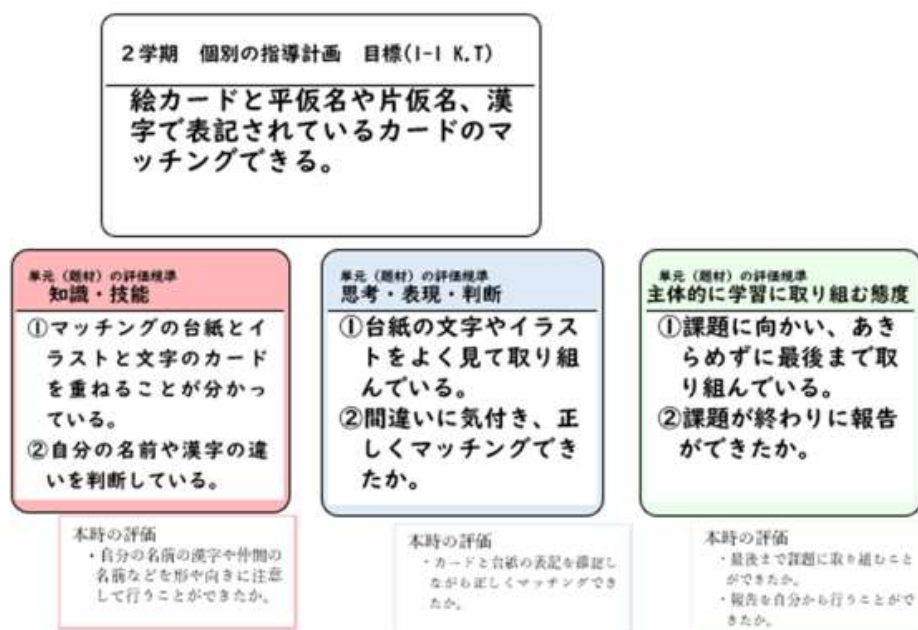
以下はワークシートに記載された目標と評価規準、各評価に対する意見・感想である。評価に際
して、「知識・技能」の文面は赤、「思考・表現・判断」は青、「主体的に学習に取り組む態度」
は緑色で色付けを行った。

① 生活単元学習「1年間の思い出のアルバムを作ろう」



A	写真を貼ってアルバムを作ることが分かり、貼りやすいように両手を使って、手元を見ながら自分から写真を貼ることができた。 ラミネート作業では、ラミネートされている状況が分かり、ラミネーターに手を掛けることなく、その場で待つことができた。	・ 内容がまとまっている ・ 活動状況からの評価が分かりやすく記述されていた。 ・ 評価するための活動が複数文章化されており、情報量が多いため。 ・ なんとなく読んでいて内容が多いような気がしました。
B	赤: 写真を貼ってアルバムをつくることが分かり、 青: 貼る場所を確認しながら、両手を使って所定の位置に貼ることができた。 緑: また、準備や片付けなど自分から手を伸ばし、積極的に活動することができた。	・ 生徒の実際の様子に沿った具体的な内容も盛り込みつつ、簡潔な表現でまとめられている点が良いと思います（個別の評価の欄を考えるとあまり長すぎない簡潔な方がよいのではないかと） ・ 好きな文章だった ・ 生徒の状況が分かりやすく、保護者への説明もしやすくまとまっている。 ・ Aのほうが若干具体的。
C	くりかえし活動する中で活動の手順を覚え、指さしや先生の言葉を聞いて活動し自分からアルバムづくりに取り組むことができました。	・ 客観的で端的な言葉で表現されわかりやすい。 ・ 限られた文章のなかに、必要な情報（評価したいポイント）がまとめられていたこと ・ “3 観点の捉え方が的確だったと思う。AB はそう書いてしまいがちだけど、重複の生徒がアルバムを作ることがわかったかどうか怪しいです。 ・ Aのラミネートの目標までふれられたところは良いと思う。” ・ 端的にまとめられているから。
D	写真を貼るまでの大まかな流れに沿って手を動かすことができ、教師の支援を基に貼ったり、ラミネーターに入れたりしながら、笑顔で取り組むことができた。 ★行動をそのまま文章化してみました	・ 作業をしている様子、情景がわかりやすい ・ 3 観点でよくまとめられていたから。 ・ まとまっていてわかりやすい。 ・ 行動プラスできていたところを姿から見取り、評価できればなおよいのか…？ ・ どの評価も実態に沿ったもので優劣をつけるのは難しい。評価としてはどのグループも妥当な内容だと思います。 ・ 状況が具体的で分かりやすい。あとは文章をすっきりすればよい。

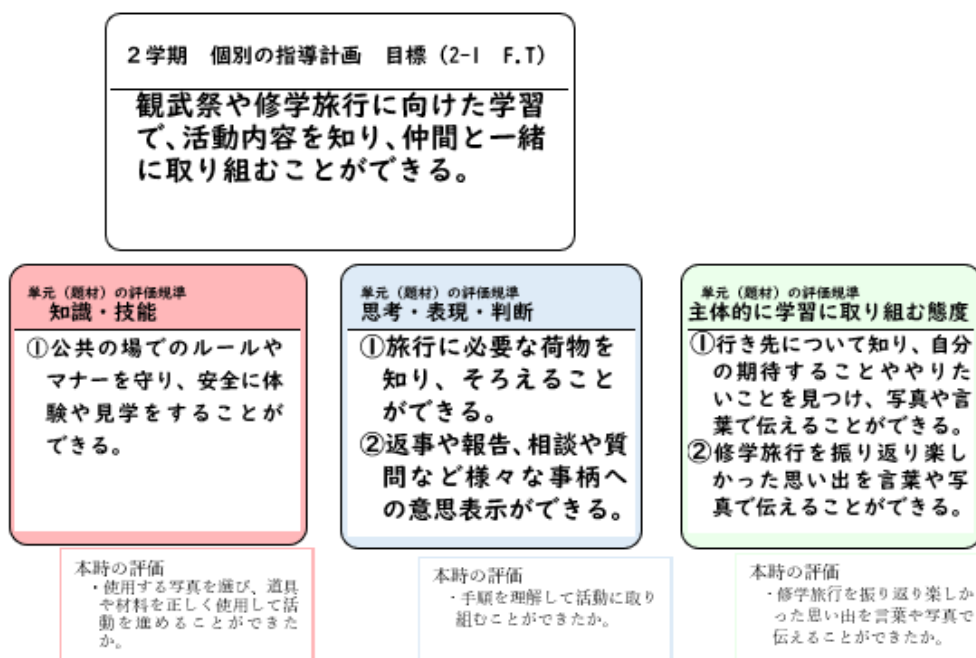
② 国語「学校生活上必要な言葉を覚えよう！」



A	赤: マッチングの意味を理解し、台紙とカードを見比べながらマッチングをすることができた。 青: また、教師の声掛けで、文字の向きの間違いに気付き、正しく置くことができた。 緑: 最後までカードを入れ替えるなど、時間いっぱい取り組むことができた。	・ 状況が分かりやすく、保護者へ説明しやすい。 ・ 3観点がよくまとめられているため。 ・ 読んでいて内容が多いと感じる。→保護者が思うのでは、 ・ 評価したい活動が複数あり、初見では評価文章から目標とした姿が見えてこないため。 ・ 具体的で実態をよく表現した評価だと思います。個別の評価だとして考えるとより簡潔な方がよいのではと考えました。 ・ 「マッチングの意味を理解し」のところで、「文字」「漢字」「構成」「パーツ」などを使ったほかのグループの評価が伝わりやすいと思ったから。 ・ 具体的だが、評価欄にまとめるには…。
B	自分の名前の漢字の違いが分かり、台紙と文字を見比べながら、最後まで一人で取り組み、報告することができた。	・ 短い文でも簡潔で様子が分かりやすい。 ・ 端的にまとめられているから ・ 簡潔な文章で読みやすく分かりやすかった。 ・ まとまっている。 ・ 評価したい様子を焦点化してまとめられているところ。 ・ 説明不足に感じる。

C	台紙の文字に応じた漢字パーツを重ねることができ、教師との確認を通して向きや正誤に気付いて、最後まで課題に取り組むことができた。	・ 内容についてはどのグループもおおむね同じような評価のため、簡潔で文章がわかりやすく整理されたCがよいと思いました。 ・ マッチングという言葉を使うほうが伝わりやすいと思った。
D	自分の名前を構成する漢字のパーツがわかり、台紙の文字とカードを見比べながらマッチングし、先生の言葉を受けて間違いに気づき正しく直しながら最後まで課題に取り組むことができました。	・ D、Bどちらもよいと思いました。状況から分かりやすく、それに合う評価がされていると思いました。 ・ 評価すべき取り組みの状況を簡潔に書いているから。

③ 生活単元学習「修学旅行に行こう」



A	赤:発表用の写真を選ぶことが分かり、たくさん写真の中から写真を選びぶことができた。 青:相手に伝えたい内容を自分の言葉で表現することができた。 緑:また、発表では記入した内容以外にも自ら進んで心に残ったことを加えて話すことができた。	・ 観点別によくまとめられていたから。 ・ 状況が分かりやすい。 ・ コンパクトになると評価欄に書きやすい ・ 内容が多いと感じる。 ・ 具体的な場面の評価がしっかりされていてよいが、文言がもう少し整理できそうに感じたため ・ 情報量が多いところ
---	---	--

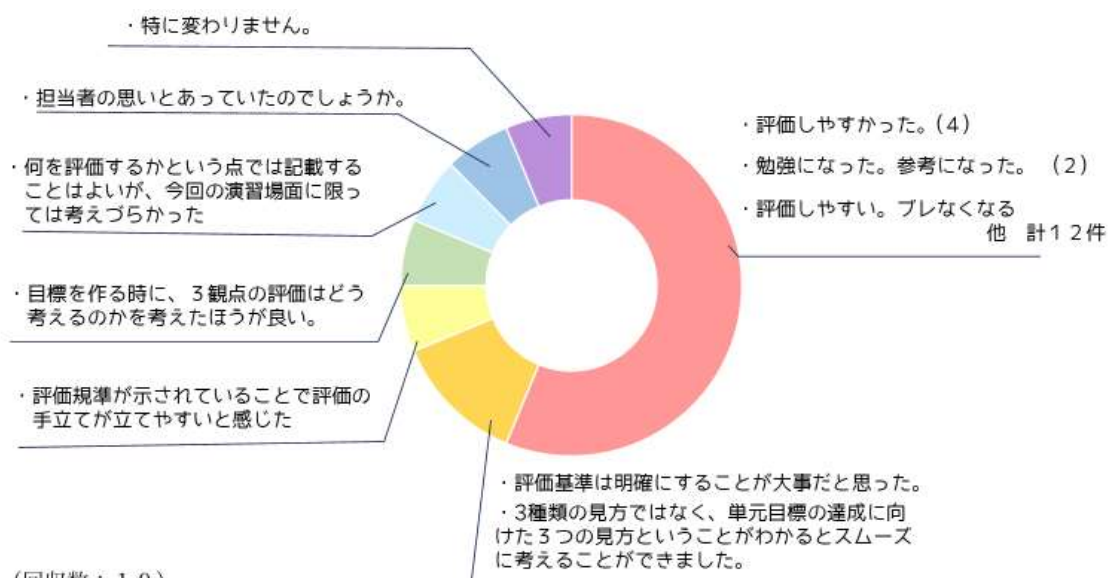
B	修学旅行の振り返りの活動内容と手順がわかり、必要に応じて質問したり、感想をまとめて発表したりしながら主体的に取り組むことができました。	・ 端的に単元全体を評価している。 ・ 3 観点に沿って評価が分かりやすく、保護者にも様子が伝わりやすい。 ・ できたことを明確に評価している ・ 簡潔だった。 ・ 「主体的に」を具体的に現せているとよいなと感じた。
C	修学旅行の事後学習では、シートにまとめる手順に沿って、思い出の写真を選ぶことができ、不足用具に気付いて教師に要求しながら、自分のことばでまとめることができた。	・ 目標に沿った評価だった。 ・ わかりやすいと思った。 ・ 観点、文章の整理が少し必要。
D	使用する材料や道具を理解し、思い出と写真を照らし合わせながら、楽しかった思い出を自分の言葉で伝えることができた。	・ 簡潔で、生徒の様子が観点ごとに端的に表現されているため。 ・ DとBで迷いましたが、「主体的」の評価表現が、「主体的」という抽象的な言葉ではなく、「自分のことばで」と具体的な様子で表現されているとこと。 ・ 内容が少なかった。 ・ 目標を若干直せば、評価としてよいと思う。知識技能のところが評価できていなかった。

3. 1 年次の成果と課題

(1) アンケート集計結果

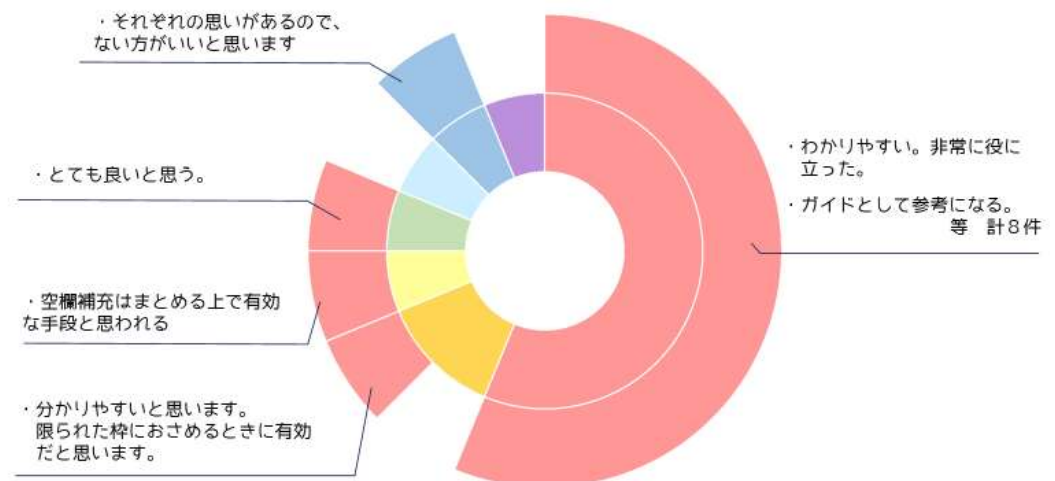
今回の学部研究に各項目でアンケートを実施した。質問と回答は以下のとおりである。

- ① 実際に評価の演習をやってみてどうでしたか？今回は 指導案に「評価基準」を記載してあります。



(回収数：19)

② Q.空欄補充の作文という考え方はどうでしたか？ガイドとして役に立ちますか？



③ 岩大附属による「評価例」はどうでしたか？ 有益だったでしょうか？

- ・ 有益だった(3)
- ・ 参考になった(2)
- ・ 有益だったと思います。考える参考となりました
- ・ ありがたかった
- ・ 非常に勉強になった
- ・ 参考にはなと思った
- ・ 参考にするには良いと思います
- ・ あった方が参考になります。普段の個別の記入のときに
- ・ ヒントになり、あった方がいいと思います
- ・ 欲しい。あると考えが、視点がまとまりやすい。作文しやすい
- ・ 良い。岩手県として全県的な基準があってもよいのではないか
- ・ 県で統一したものを作成し、どこに行っても使えるものにしてほしい
- ・ あれは遊び、生単、作業を單元ごとにとりくんで年間で「こうだね」と共有できたキーワードをまとめたものだったので、この後教科に適用できるかは…

④ 実際に評価を行ったうえで、3観点に関する疑問が出てきましたか？

- ・ 評価が複数の観点にまたがることありまよう
- ・ 個別の実態や目標をイメージできるほど観点がスムーズでした
- ・ グループ内で突き合せたので、的確に3観点到った評価ができたと思う。
- ・ 改めて評価基準と照らし合わせることで評価の仕方を深めることができました。
- ・ 活動内容等をどの観点到すべきか考えながらまとめた
- ・ 3つに分けてみる／考えることができまとめやすかった
- ・ 勉強になった。参考になった (2)

⑤ 今年度の学部研に関して改善点や要望がありましたら教えてください

- ・ 良い試みだった。2 学期の評価に役立てたい。
- ・ もっと評価の例を見て考える機会があってもよい。
- ・ グループで考察するやり方は講座よりもとてもよい。
- ・ グループでの演習形式は学びが多くよかったと思う。
- ・ 軸となる作業学習をベースにできるとカリマネにもなると思います。

(2) 次年度の方向性

アンケートを踏まえ 2 年目の実施に関しては下記の方向性を検討する。

- ・ 次年度も 3 観点での評価について行っていく。
- ・ 引き続きグループでの演習を行い、他グループの評価を見て考える機会を設けたい。
- ・ 「個別の指導計画」の目標設定の段階の評価規準の具体性。
- ・ 評価例の作成が可能かどうかの検討。
- ・ 提案授業に関しては、作業学習だけがカリキュラムマネジメントに係るものではないので授業提案者の興味関心などを踏まえて授業を決定する。